

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 10年1月 ～予想を大きく上回る高い伸び

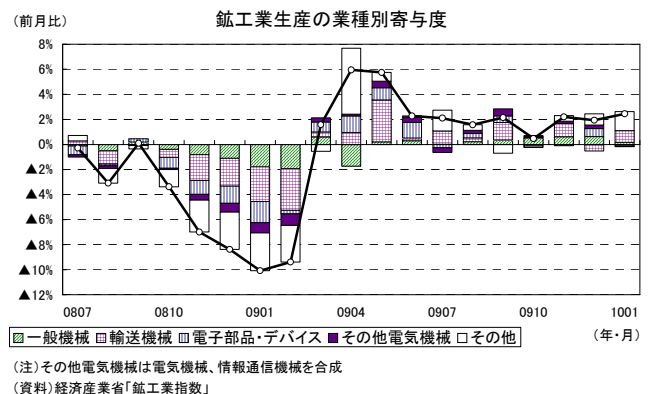
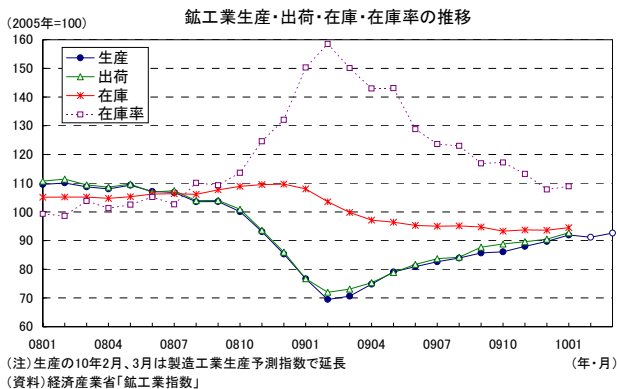
経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 11ヵ月連続の上昇

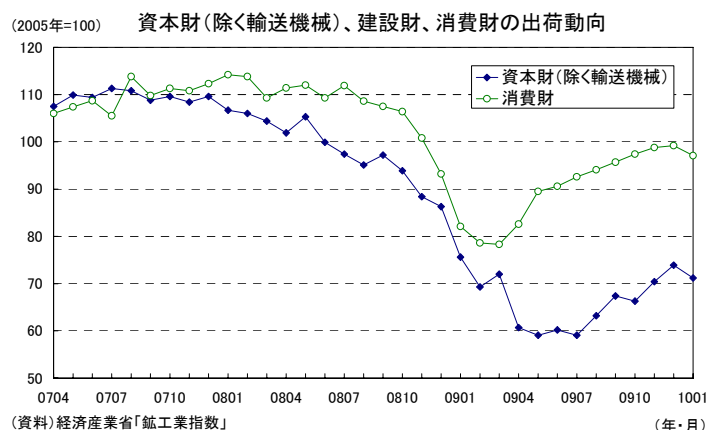
経済産業省が2月26日に公表した鉱工業指数によると、1月の鉱工業生産指数は前月比2.5%と11ヵ月連続で上昇し、事前の市場予想（ロイター集計：前月比1.0%、当社予想は同1.8%）を大きく上回った。出荷指数は前月比2.4%と11ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比1.0%と2ヵ月ぶりに上昇した。

1月の生産を業種別に見ると、12月に10ヵ月ぶりに低下した輸送機械が前月比5.5%の高い伸びとなったほか、設備投資の下げ止まりを反映し回復が続く一般機械が前月比1.5%と9ヵ月連続で上昇した。一方、液晶テレビなど在庫の積み上がりが見られる情報通信機械は前月比▲2.7%の低下となった。速報段階で公表される16業種中、13業種が前月比で上昇、3業種が低下となった。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は09年10-12月期に前期比11.1%の高い伸びとなった後、10年1月は前月比▲3.7%となった。ただし、1月の指数を10-12月期と比べると1.4%高い水準にある。

消費財出荷指数は10-12月期の前期比4.7%の後、1月は前月比▲2.1%となった。エコカー減税・補助金、エコポイント制度といった



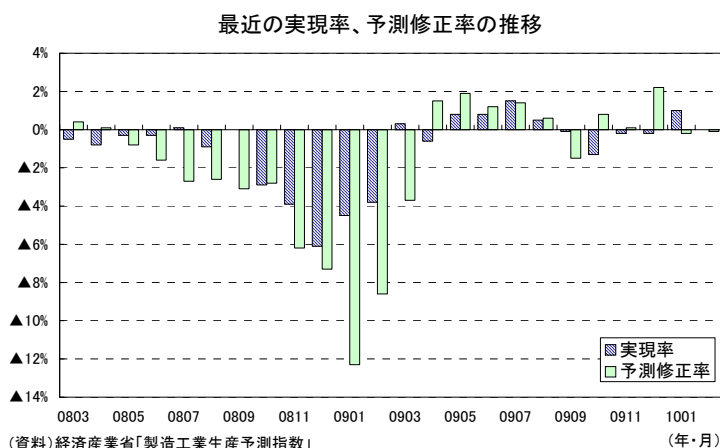
政策効果から高い伸びが続いていた耐久消費財が前月比▲3.2%と11ヵ月ぶりに低下した。単月の動きだけでは判断できないが、政策による押し上げ効果が徐々に弱まってきている可能性もあるだろう。

2. 現時点ではリコール問題の影響はみられず

製造工業生産予測指数は、2月が前月比▲0.8%、3月が同1.6%となった。予測指数の伸びがマイナスとなるのは、今回の景気回復局面で初めてとなる。

生産計画の修正状況を示す実現率（1月）、予測修正率（2月）はそれぞれ1.0%、▲0.1%であった。

予測指数を業種別に見ると、設備投資の下げ止まりから回復を続けている一般機械は2月には前月比15.0%の大幅増産計画となっている（3月は前月比▲2.8%）。一方、在庫指数の水準がこの半年間で50%以上上昇している情報通信機械は1月の前月比▲2.7%に続き、2月（同▲6.7%）、3月（同▲6.0%）も大幅減産計画となっている。



なお、今回の予測調査は2/10時点で報告されている。トヨタのリコール問題はこの時点ですでに表面化していたが、今回の予測調査の結果を見る限りその影響は表れていない。輸送機械の予測指数は2月には前月比▲1.7%の低下となったが、予測修正率は0.3%と前月時点の生産計画がほぼ維持されており、3月には前月比0.6%と小幅ながら上昇する計画となっている。リコール問題による影響は来月以降表面化してくる可能性があるだろう。

1月の生産指数を2月、3月の予測指数で先延ばしすると、1-3月期の生産指数は前期比4.5%の上昇（09年10-12月期実績は前期比4.5%）となる。リコール問題に伴う先行き不透明感はあるものの、好調な輸出を追い風として鉱工業生産は堅調な動きが続いている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。